

今こそ、震災ボランティアを

東日本巨大地震 わ も救援活動

巨大地震が東日本を襲ってから1か月。大津波、原発事故.....被災地の惨状は目を覆うばかりです。今こそ、阪神大震災のボランティア経験を生かし“私たちができる何か”をすべきではないでしょうか。グループわでも、救援募金を手始めに、具体策を練っており、息の長い支援活動を続ける予定です。

募金すでに47万円

グループわの救援募金は部会・地区会の協力をえて3月15日から開始。4月初めまでに寄せられた約47万円は、福祉振興協会（しあわせの村）を通じて神戸市に寄託しました。市は他の募金と合わせ、お米や缶詰、タオル、洗剤、食器、長靴など避難所生活に欠かせない物資を購入。子供たちが書いた「負けないで」「がんばろう」などの応援メッセージとともに、現地に派遣する市職員に託されました。今後も順次、救援物資を調達、仙台市・釜石市・大槌町へ届けられる予定です。

振興協会の募金活動は村内各所で4月中旬まで。グループわ、社会福祉協議会の募金は継続中です。新学期が始まり、学内でもボラセンや各コースで募金を呼び掛ける活動が増えています。

一方、グループわは、息の長いボランティア活動をしようと救援プロジェクトチーム

（代表・道満俊徳）▲支援のメッセージを書く子供たちを発足させ、具体案づくりに着手しました。子供たち向けの支援活動を中心に考えています。お手伝いいただける方、協力いただけるサークルは、ご連絡ください。

●わ本部でお預かりした募金（第1次分、4月11日現在）
垂水会2万円、14期絵画クラブ1万円、環境未来館有志4万1千円、灘区会木下・渡辺2万円、国際部会柳川瀬5千円、里山和楽会2万円、松元楊子（生8）1万円、東灘区会有志6千円、西区会児玉浄・寛子1万円、11期食文有志1万4千円、川西大吉・公子5千円、須磨区会2万円、北区会役員一同1万9600円、ほたる座1万円、灘区会1万円、菅田忠志・啓子5千円、西区会1万円、三島隆夫1万円、三輪匡清3千円、田野・国分2千円、男声合唱団4645円、茅中英一2千円、SCハワイアンズ1万4千円、生環12期有志5万円、昔遊び研究会有志5万4945円、美工10期匿名1万円、わ本部役員8万9千円



▲大津波で海になった仙台市内（3月12日、読売新聞提供）

無事だった？ うん、生きてる

「無事だった？」「うん、生きてる。家も大丈夫だった」 - 3月11日の地震発生から5日目にやっと仙台に電話が通じた宮里寿子さん（国9）。無二の友人Kさん夫婦は青葉城近くの高台に住んでいます。テレビで見る東北の惨状に、やきもきした4日間でしたが、受話器の声を聞いて涙・涙の会話が続きました。家は壊れず、やがて電気もついたということですが、ガス、水道は出ず、外出もままならない生活は、老夫婦にとって大変だそうです。なにより、大津波で市街地の住宅がなくなって、景色が一変。海まで一望できるようになってしまったことが一番つらいそうです。KSCの仲間にも、親類・知人が被災。同じような心配をしたという話を聞きます。1日も早い復旧を祈るばかりです。

●緊急募集 震災ボランティアとして、やっていること・やってみたいこと・現地へ行かれた方の手記・提案・意見など、「情報ぎやらりー」にお寄せください。